

【出席した理事】相澤俊峰、伊藤康夫、今釜史郎、金村徳相、川口善治、國府田正雄、須田浩太、高橋寛、
竹下克志、永島英樹、中村雅也、播戸谷勝三、藤原靖、細金直文、宮腰尚久、山田宏、吉井俊貴、
渡辺雅彦

【出席した監事】岩崎幹季、前田健

【議事の経過の要領及びその結果】

理事長・中村雅也が議長となり、開会を宣して議事に入った。

1. 審議・決議事項

①. 令和6年度第5回理事会議事録の確認

修正等ある場合は事務局へ一報する。

②. WGメンバーおよびアドバイザーについて

寒竹司評議員(山口労災病院)、中西一義評議員(日本大学)をアドバイザーとして追加することが報告され、一同承認した。

③. 実務WGメンバーについて

JSSR-DB実務WGのメンバーとして、DBの運用やデータマネジメント、AIに詳しい方や実際に運用するシステム会社の非会員を追加したことが報告され、一同承認した。

④. 海外学会との連携などについて

1) NASS との連携について

NASS 2024 から依頼を受けて、「Aging Spine: Treatment Strategy in the Super Aging Society」のシンポジウムを企画し高橋真治委員、高畑雅彦委員、牧聡委員の3名が参加することが報告された。理事長から、直前の依頼だったことから理事長、担当理事の出席がかなわなかったため、今後は早めの依頼を要望し、理事長か担当理事の出席を検討していくと補足があった。一同承認した。

2) Spineweek 2027 (2027年5月17日~21日、カナダ・モントリオール) の参加について

主催者から JSSR に参加依頼があった。委員会で検討し、前回同様に半日シンポジウム＋一般演題数題で参加する方針であることが報告された。今後 JSSR の参加枠をどうするか等様々な議論があったが、現時点では前回踏襲としつつ他学会の動きもみながら委員会で引き続き検討することになった。一同承認した。

3) Dr Rajasekaran (Ganga hospital) からの visiting professor 派遣依頼について

アジアトラベリングフェローの時期に合わせて、シニアの visiting professor 派遣依頼があった。滞在費や渡航費用は先方負担であり、委員会では賛成意見が多かったと報告があった。一同検討した結果、派遣について反対意見なく承認された。ただし、制度の立て付けや実施時期についてはまだ不明な点も多く、国際委員会で確認の上検討することとした。

⑤. 会員審査 (6月分)

6月の入退会について委員会では全員承認であった旨報告があった。脊椎脊髄外科専門医である専門会員入会申請者1名については、基本領域学会専門医資格があることを条件に入会を承認した。

⑥. ホームページについて

1) 2024年バナー広告趣意書について

HPやニュースレターに掲載するバナー広告の趣意書案について、今年度は申込があった月から1年間または半年を掲載期間と修正していることが説明され、一同承認した。

2) HPリニューアルについて

現行のHPはさまざまな問題点があるため、リニューアルを計画していることが報告された。様々な意見が出た結果、委員会に持ち帰り、プロの業者と検討を続けて継続審議することを求めた。

⑦. LIF適正使用指針策定WGの新規設置について

LIF適正使用指針第1版を理事会で承認されたが、作成元のWGを正式に設置承認していなかったとして、改めて5名のメンバーでWGを設置することが報告され、一同承認した。

⑧. WGメンバーについて

9つの研究WGメンバーの人数は概ね各10名程度で、その代表は委員会メンバーを務め情報共有できる体制にしていると説明があり、一同承認した。理事長から、さまざまなプロジェクトを進める上で事務局体制等の整備も必要であることから、未来のプロジェクトを議論するメンバーも検討してほしいと意見があった。委員会に持ち帰り検討することになった。

⑨. その他

1) 仙腸関節固定デバイス適正使用基準の公開について

2022年7月の理事会においてすでに承認されている第1版は、薬事承認が下りてからHPへ公開する予定だったが、薬事承認を待たずにHPへの公開、SSRRへの論文投稿を進めたいとして審議の依頼があった。この適正使用指針は3期にわたって理事会で継続審議していること、欧米ではすでに公表されていることから、薬事承認されたときに齟齬が生じる可能性はあるが、その際に改めて改訂を行うということで、一同承認した。

2) セメント注入型スクリュー後発品の導入プロセスについて

メドトロニック社から上市されるセメント注入型スクリュー後発品について、モニタリングを実施すべきかななどの後発品の導入プロセスについて審議依頼があった。先行品のモニタリングを学会としてしっかり対応しているので、後発品のモニタリングまで行う必要はないと委員会に回答することで、一同承認した。

3) 新技術評価検証委員会のWGメンバーについて

WGメンバーについて報告があり、一同承認した。

⑩. その他

1) JSR参加学会の変更について

JSRを構成している7学会のうち「西日本脊椎研究会」がJSRを脱退する意向であることが報告された。西日本脊椎研究会事務局を担当している永島理事からも説明があり、一同承認した。

2) 学術情報のデータベースEBSCOhost へのJSR 掲載について

EBSCO(米国)が運営するデータベースEBSCOhostへのJSRおよびSSRR収蔵依頼があった。国内でも搭載ジャーナル数および契約施設数が増加していること、搭載にあたって費用や作業は不要であることを確認し、一同承認した。

2. 審議・報告事項

①. データベース委員会報告

2022年度に約158,000件の登録があり、年次報告をHP上に掲載して現在英文論文を作成中である。また、JSSR-DBを利用した解析研究チームの立ち上げを準備中であること、2023年度は前年度比17%増加していて、最終的な登録は186,396件となる見込みであること、これは整形外科医が行っている脊椎脊髄手術の93.2%程度になることが報告された。また、クリニカルインディケーター・ベンチマーキング(自施設のみ)、JSSR-DB リスクカリキュレーター、JOANR 疫学検索機能の準備を関連団体と行い、データ利用の取りまとめを行うレジストリー研究推進チームの設置、レジストリー信頼性調査を進めていることが報告された。

②. ヒストリアン委員会報告

50周年記念誌の進捗状況について報告があった。中村理事長から、委員会で細かな確認をしても修正箇所は出てくる可能性があるので、今後も委員会で作業を続けて、適宜理事会にも報告してほしいという発言があった。

③. 国際委員会報告

1) APSS2024(6/13~16、香港)

ニュースレター等を用いて次回以降の参加を呼び掛けていく。

2) Spine Across the Sea 2024 (7/28~8/1、ハワイ・カウアイ島)

Final Programが完成、JSSR Facultyを18名に依頼している。学会からの補助も行うが、為替レートを鑑みNASSと交渉してJSSR会員の参加費を減額してもらった。

3) JSSR-Eurospine Traveling Fellowship

18名の応募者から大場 哲郎評議員(山梨大学)と谷 陽一会員(関西医大)を選出した。合計70万円の補助を行う。

4) Eurospine 2024 (10/2~4、ウイーン)

EurospineとのMOUに基づき、当該年学術集會会長招待と合同シンポジウムの企画が予定され、中村理事長が invited lecture、渡辺理事が座長として招聘されている。

5) Spine 20 (8/9~10、リオデジャネイロ)

玉井委員、北村委員が参加予定であることが報告された(旅費補助あり)。

6) アジアからの第54回学術集會招聘推薦者

学術集會から5名、委員会から10名程度候補者を選定し、学術集會の招待演者の旅費条件等を確認してまとめる予定である。

7) JSSRからの補助金について

関連学会への参加補助金は、欧米・中東・オセアニア25万円、アジア15万円とすることを委員会で確認した。

④. 新技術評価検証委員会報告

1) アドバイザーの追加

PMDAから横山敬正氏の追加要望があり、一同承認した。

2) BKP・VBS適正使用指針第1版について

日本脊髄外科学会理事会でも承認を得た。今後はPMDAの監修を受けたうえで、最終版にPMDAを追加する予定。

3) モルヒネ髄注用体内埋め込み型持続髄腔内注入ポンプシステムについて

同ポンプに使用できるのは塩酸モルヒネのみだが、pH 3以下の薬剤を使用するとポンプが腐食破損する危険性があることが判明した。対策を検討しているようだが、解決はまだ難しい状況だと報告された。

4) セメント注入型スクリューにおけるセメント漏出に関する合併症について

2024年6月に発生した事例が共有され、会員に注意を喚起すべきという意見があった。事例の詳細や個人情報がわからないように修正し、患者と主治医の同意をとってからHPへ掲載する方針を一同承認した。

⑤. COI委員会報告

日本医学会COIガイドラインの改定に沿って、JSSRのCOI書式も改訂した。7月20日迄の提出を依頼しており、ま
とまり次第審査を開始する予定であると報告があった。

⑥. プロジェクト委員会報告

進行中のプロジェクトのうち、3つがエントリー終了、2つが目標症例数到達、残りの1つも予定期間終盤となり症
例登録数は86%に推移していると報告があった。

⑦. SWJについて（脊椎関連学会連携促進委員会）

1) 企業への声かけリストについて

連携促進委員会、関連メンバーで企業への声掛けを実施するにあたり、対応状況を共有するためスプレッドシー
トで運用している。

2) 趣意書アップデート版について

趣意書の税金の取り扱いをJSSRと同様にしているが、一部の企業から共催セミナーが非課税となることに異議が
あったので、学術集会プログラム等検討委員会とも相談しながら情報共有して検討する。

3) 今後の準備状況について

2025年、2026年のSWJ進捗状況の詳細が報告された。

4) その他

SWJは法人であるので、細かな内容については今後本委員会ではなくSWJ内部で行うよう調整している。JSSRが
当面の運用費を負担しているため準備状況の定期的な報告は必要だが、JSSRでの月次報告は今後変更する予定だと
報告された。

⑧. 学会事業継続に向けた外部団体との連携促進WG報告

HPやニュースレターのバナー広告減少に対して広報委員会とともに対策を検討していくこと、今後の学会運営資
金を得る活動を活発にしていくため、WGメンバーを増員する予定であることが報告された。

⑨. その他委員会報告

1) JSR編集委員会報告

関連学会の投稿査読システム導入については7学会を前提として進めていたが、西日本脊椎研究会脱退後6団体と
なったのでその運用について改めて検討していることが報告された。

2) ヒストリアン委員会

50周年記念誌の費用が、紙代などの高騰やページ数の増加のため2年前の見積りよりもかなり超過する予定である
ことが報告された。

⑩. その他

・次回の理事会開催日：8月19日（月）14：00-16：00 Zoomにて

以上
令和6年7月22日
一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
議長 理事長 中村雅也
監事 岩崎幹季
監事 前田健